

DS-0321 FFT 解析ソフトウェア
コンフィグレーション設定の基本操作

DS-0321 FFT 解析機能ソフトウェア

コンフィグレーション設定の基本操作

DS-0321 FFT 解析機能ソフトウェアの各種設定・操作は [コンフィグレーション] ウィンドウで行います。測定・解析に必要な設定は全て [コンフィグレーション] 内にまとめられています。[コンフィグレーション] ウィンドウはメニューバーから開くことができます。

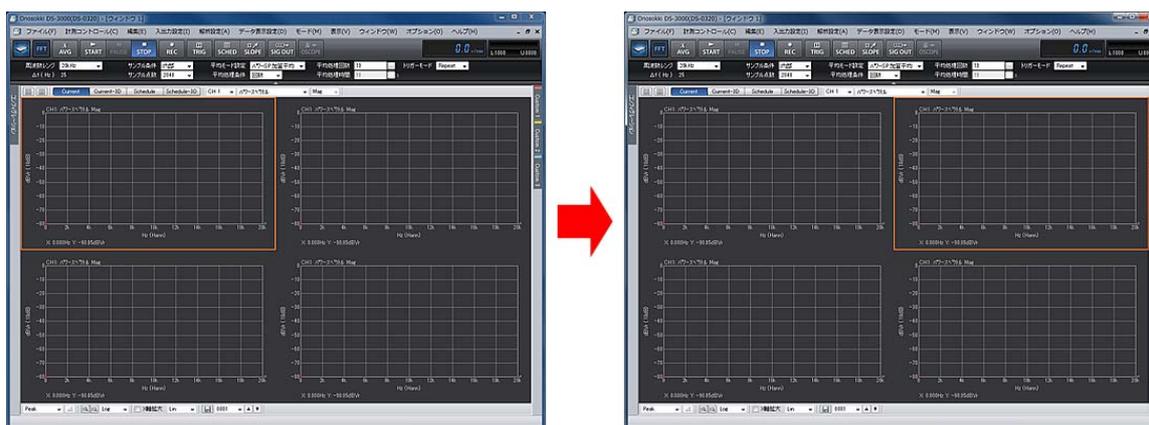
ここでは、入出力設定を例に、コンフィグレーションの基本的な操作を説明します。

表示される「▼」等のマークや各種ボタンに注目ください。クリックまたはダブルクリックで操作をすることができます。なお、各設定項目の機能説明は別の簡易操作手順で説明し、ここでは割愛させていただきます。

■ 操作

1. 初期画面表示

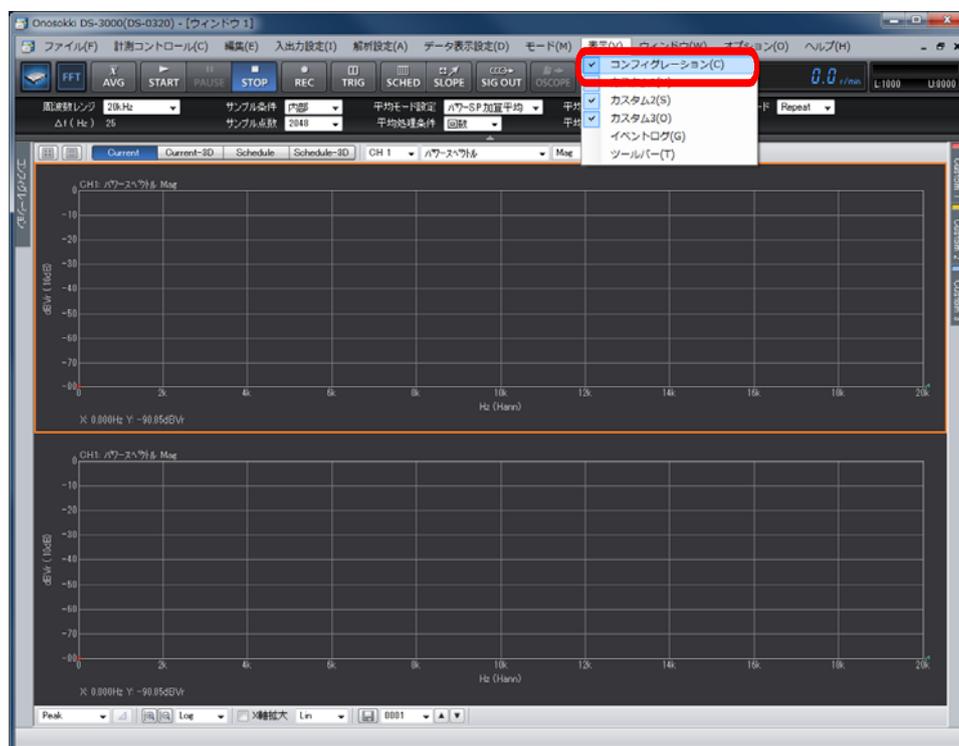
- ① 初めて DS-0321 を立ち上げると下図のような画面が表示されます。
- ② 画面内でデータ部をクリックすると、オレンジ色の枠がそこへ移動します。このオレンジの枠を「アクティブ画面」といいます。[コンフィグレーション] ウィンドウ内での各種設定は、このアクティブ画面に反映されます。



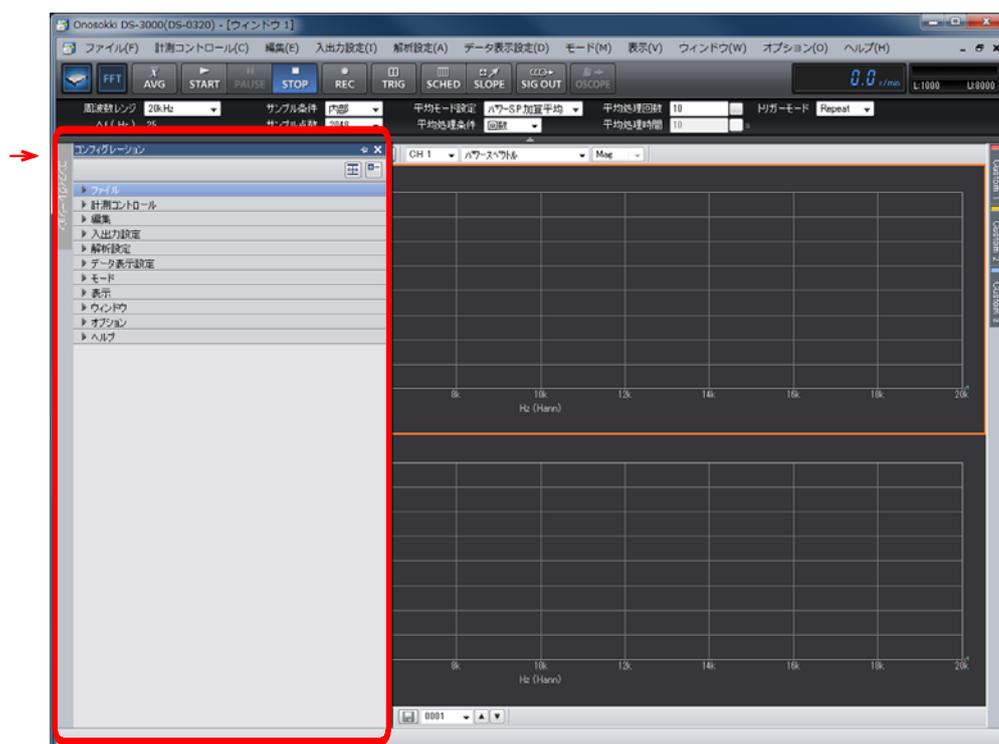
- 左上のデータをクリックするとオレンジ枠が移動します。オレンジの枠で囲まれた部分が「アクティブ画面」です。
- [コンフィグレーション] ウィンドウでの各種設定は、「アクティブ画面」に反映されます。但し、例えば周波数レンジや電圧レンジなど全 CH に関する測定項目は除きます。
- [STOP] 状態でないと、操作できない項目があります。例えば、平均処理回数は平均化測定中では文字が薄くなって表示され、設定変更できません。

2. コンフィグレーションの表示

- ① メインメニューから [表示] → [コンフィグレーション] の順でクリックします。



- ② [コンフィグレーション] ウィンドウが表示されます。



<備考>

- [コンフィグレーション] ウィンドウ上の各種ボタン開設

表示	詳細
展開/格納(▶) ボタン	設定項目があることを示します。ダブルクリックで項目が展開/格納を交互に実行します。
(マ) ボタン	詳細項目があることを示します。項目文字をクリックすると展開します。
	クリックするとコマンドを実行します。
	クリックすると詳細な条件を設定するダイアログボックスを表示します。
	クリックすると ON と OFF が切り替わります。 <ul style="list-style-type: none"> • : OFF の状態です。 • : ON の状態です。
	クリックすると ON と OFF が切り替わります。 <ul style="list-style-type: none"> • : OFF の状態です。 • : ON の状態です。
	クリックすると次のいずれかに対応するダイアログボックスを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • フォルダを参照する場合：(フォルダ参照) ダイアログボックスを表示します。 • ファイルを参照する場合：(開く) ダイアログボックスを表示します。 • 文字列を入力する項目の場合：(文字列入力) ダイアログボックスを表示します。 • 数値を入力する項目の場合：(数値入力) ダイアログボックスを表示します。

3. コンフィグレーション設定基本操作

-1 入力設定

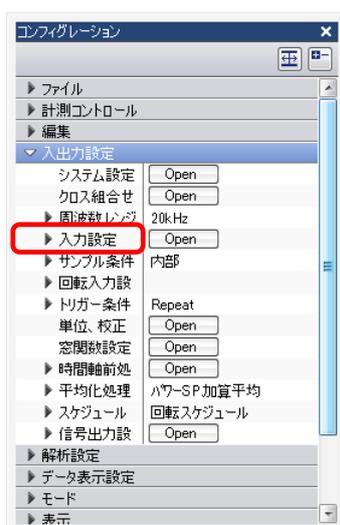
- ① [コンフィグレーション] ウィンドウの [▶ 入出力設定] をダブルクリックして展開します。

ここで、**展開/格納(▶) ボタン** が有る項目は更に詳細項目が有ることを示しています。

なお、[入出力設定] を展開した状態で再度 [入出力設定] をダブルクリックすると展開表示を閉じます。

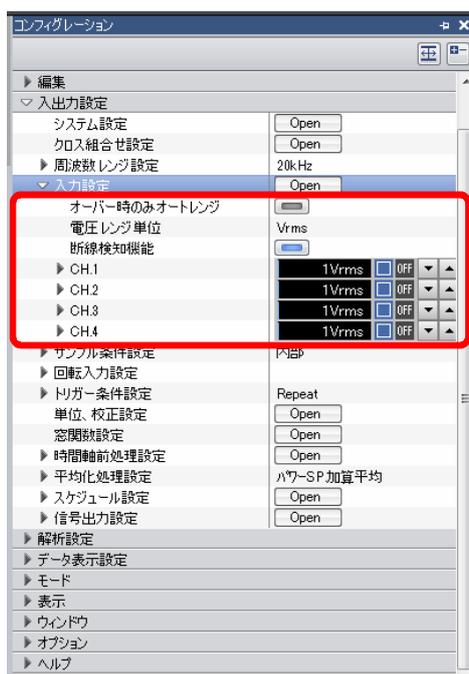


- ② 「入出力設定」内の [▶ 入力設定] をダブルクリックし、下層の詳細項を展開します。



- ③ 展開された詳細項で、例えば [電圧レンジ] では [▶ CH1] ~ [▶ CH4] の右欄にある電圧レンジの設定を変更します。設定変更は「▲」or「▼」ボタンを操作して行います。

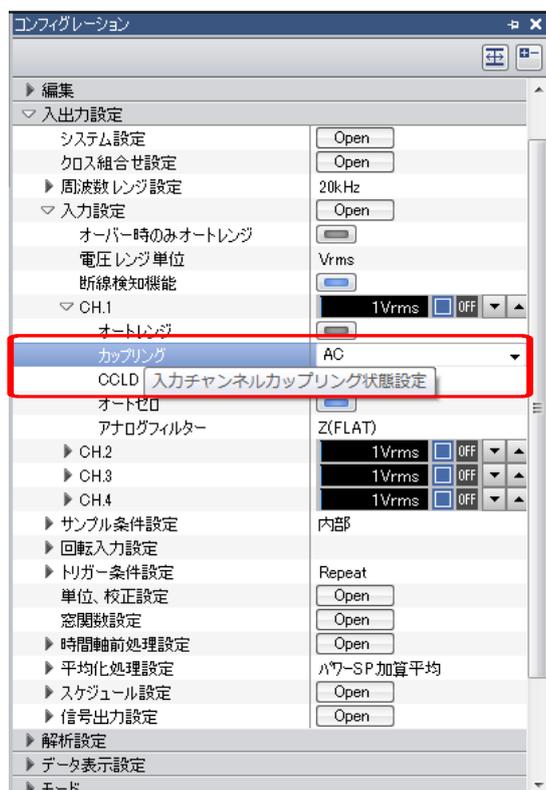
なお、右欄には項目に応じて現在設定されている内容や各種設定ボタンが表示されています。



- ④ [▶ CH1] をクリックし、次を展開します。その様子を下図の赤枠に示します。



- ⑤ [カップリング] をクリックすると入力カップリングとして [AC] / [DC] の選択が可能となります。なお、[カップリング] 項目の下にある [CCLD] (定電流駆動) を ON にすると、[CCLD] での入力は AC 専用で使用する必要があるため、[カップリング] 項目で [DC] の選択は出来ません。こうした制限は、多くはありませんが、他の項目でも発生することがありますのでご注意ください。

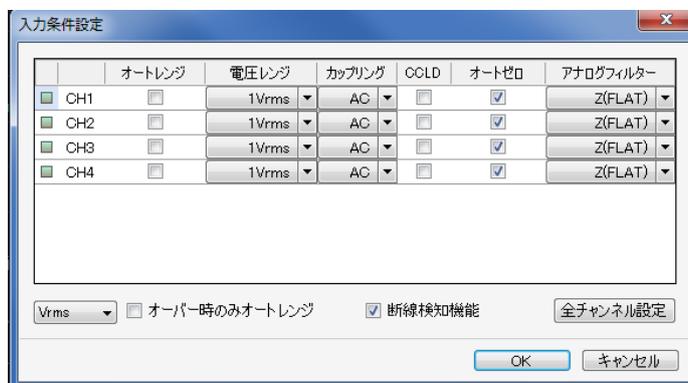
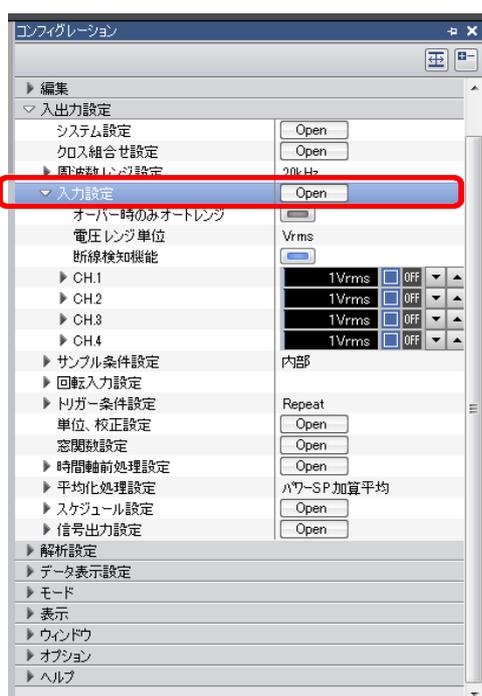


- ⑥ [CCLD] (定電流駆動) 入力を ON にするには、右欄の ボタンをクリックします。ボタンが に変わり CCLD 入力が ON になり、CCLD 対応検出器に DC 24 V/4 mA が供給されます。この機能は CCLD に適合した加速度ピックアップ[®]などで使用します。

ボタンをもう一度クリックすると OFF になります。下図では [CCLD] 並びにその下の [オートゼロ] も ON になっています。

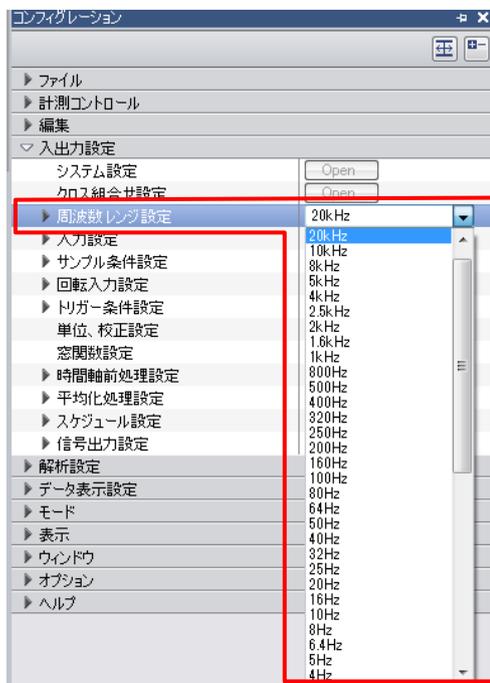


- ⑦ [入力設定] 画面で右欄の ボタンをクリックすると、下図右の [入力条件設定] ダイアログが開き、[CH1] ~ [CH4] の各種設定を一括して変更できます。



-2 周波数レンジ設定

- ① 「入出力設定」内の「▶ 周波数レンジ設定」をクリックすると、右欄に現在選択されている周波数レンジが表示されます。周波数レンジを変更するには、表示された周波数レンジ右の「▼」ボタンをクリックします。選択可能な周波数レンジが表示されます。下図右は [20kHz] レンジが選択された状態です。



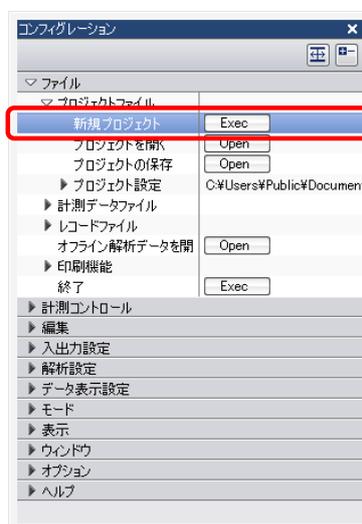
-3 平均処理回数設定

- ① 「入出力設定」内の「▶ 平均化処理設定」をダブルクリックして展開します。展開された詳細の「平均処理回数」には現在設定されている平均処理回数が表示されています。
- ② 平均処理回数を変更するには平均処理回数数値右の  ボタンをクリックします。「数値入力」ダイアログが開きますので、設定数値をキーインします。



-4 ファイル設定

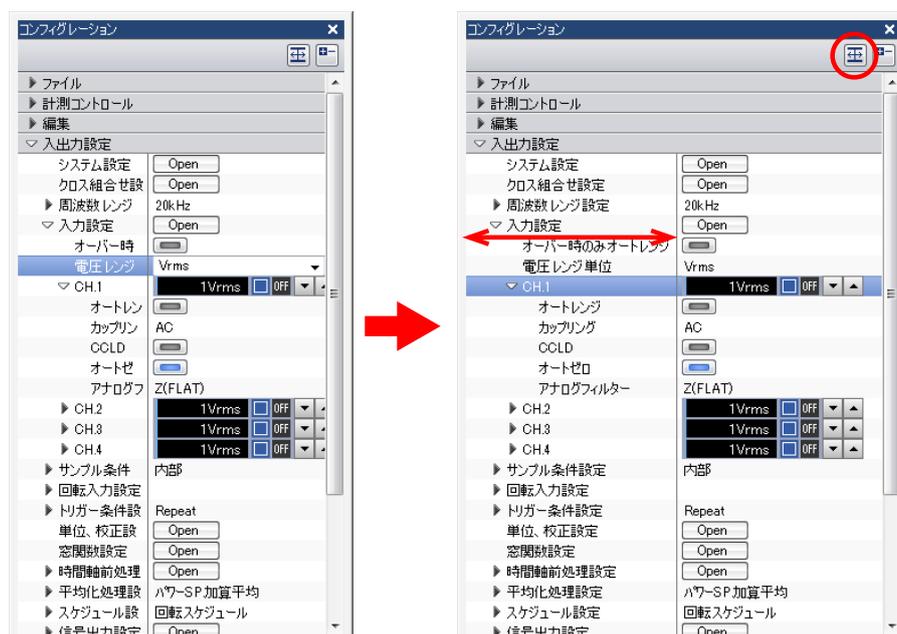
- ① 新規にプロジェクトを始めるには、[コンフィグレーション] ウィンドウ内の「▶ ファイル」をクリックして表示される新規プロジェクト右欄の **Exec** をクリックします。今表示されているウィンドウが閉じ、新規プロジェクト(初期設定の測定条件)としてウィンドウが開かれます。



4. コンフィグレーションウィンドウの幅の調整と格納

-1 幅の調整

コンフィグレーションウィンドウ内の境界線にマウスを合わせると「幅調整マーク」が現れるので、ドラッグして見やすい幅に調整できます。また、右上の「 自動サイズ調整」ボタンをクリックすると、左欄は自動調整されます。



-2 格納

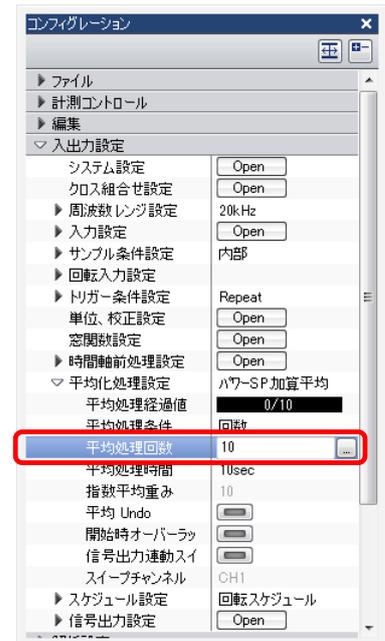
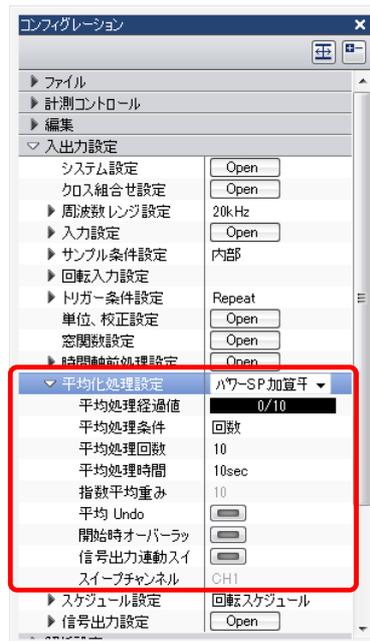
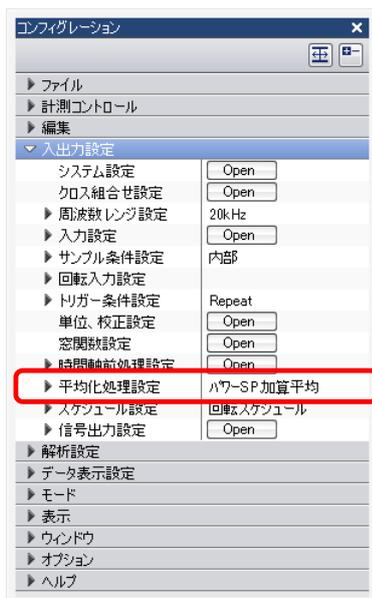
展開した項目をダブルクリックすると、その項目を個別に格納します。展開したもの全てを格納するには「 格納」ボタンをクリックします。

多くの項目を展開すると [コンフィグレーション] ウィンドウ内にすべて表示できなくなるので、一度全て格納してから必要な項目だけ開くと見やすくなります。



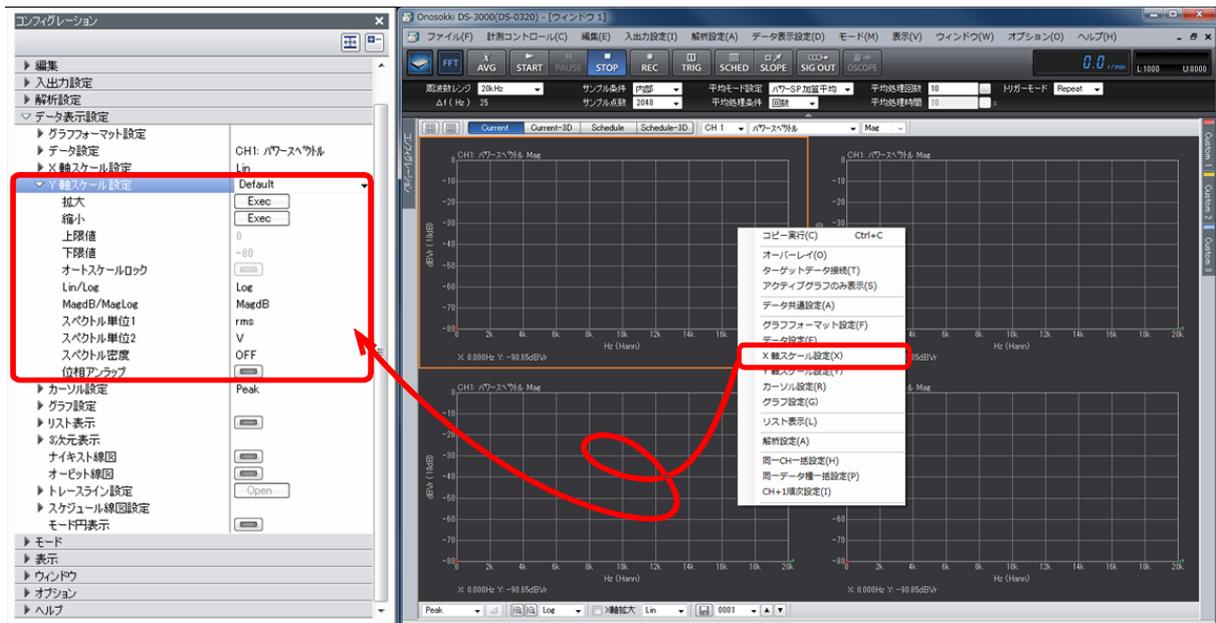
5. コンフィグレーション設定基本操作のまとめ

- ① [コンフィグレーション] ウィンドウ内の各項目を最下層まで展開すると、今まで説明してきたように項目に応じて ON/OFF ボタン、選択ボタン、キーインボタン、Exec ボタンなどが現れ、それらボタンで設定された結果が表示されます。



上図左は [平均化処理設定] — [パワーSP 加算平均] が設定されていることを示します。上図中では [平均化処理設定] の詳細を展開しています。また、上図右は [平均化処理回数] 文字をクリックしキーインボタンで [平均化処理回数] として “10” が設定された状態を示しています。

- ② データグラフ内で右クリックするとポップアップメニューが開きます。ポップアップメニュー内の項目をクリックするとコンフィグレーションウィンドウ内にその項目の詳細設定が展開されます。



ここでは一部の項目の説明になりましたが、他の項目でも同様な操作手順となります。[コンフィグレーション] は DS-3000 シリーズをお使いいただく上での基本操作となりますので、十分ご理解ください。なお、各項目の機能については別紙簡易操作手順を参照ください。